

社会福祉法人白寿会令和2（2020）年度事業計画

【法人本部】

1. 本部事業計画

2020年度 白寿苑・つむぎ苑の施設老朽化にともない計画的に実施しております大型修繕及び機器の入れ替えについては以下の通りです。その他、経年劣化に伴う設備の故障・不具合箇所の修理につきましては、その都度実施させて頂きたいと思っております。

件名	見積額
エレベーター機能維持管理	249.4万円
本館受電設備改修工事	257.0万円
本館誘導灯更新工事	715.0万円
中央監視装置 UPS 更新作業	28.6万円
各種設備修理	259.9万円
新館屋上暖房給湯器部品交換	18.7万円
ケアハウス居室天井照明器具 LED 化工事	145.0万円
大便器自動水栓修繕	47.5万円
浴槽配管洗浄作業	36.3万円
ファンクス電話交換機設備の更新	247.5万円
合計	2,004.9万円

職員の採用については、2020年度も継続して重点課題として取り組んでまいります。働き続けたいと感じる魅力ある職場づくり、それを実現する職場内コミュニケーションの充実、職員のスキルアップを組織として支援する「スキルアップターゲット制度」「研修企画ワーキング」等をすすめながら、従来からの大学新卒者を主にターゲットとしたナビサイトの充実、2018年度から成果の上がってきている高卒求人への取り組み、強化している丁寧な公共の職業相談所へのアプローチ、地道な大学・短大・専門学校等との関係づくり、多様な人財を受け入れていける環境づくりをすすめます。

社会福祉法人として求められている「地域貢献」についても積極的に取り組み、当会のもつ専門性を活かして地域とのつながりをさらに深めます。

【施設部】

2. 特別養護老人ホーム白寿苑

特別養護老人ホーム白寿苑の現状としましては、入所者の平均年齢は88.8歳、平均要介護度は4.1。胃ろう造設者は5名、在宅酸素療法使用者は4名在籍されており重度化傾向にあります。またターミナル期との診断を受けている入所者が4名となっております。

昨年度途中までは改修工事に伴い減床しておりましたが、2020年度は新規入所を一層に進め、稼働率の向上に努めて参ります。介護職員を中心に人材確保が困難な状況は継続しておりますが、入所者の生活を護る根幹であるケアの質を担保するために業務内容の見直し等は継続して行い、今後も「利用者のために」との基本理念に基づき、スタッフ個々のスキルアップへの取り組みを強化し、サービスの質を担保としたサービス提供を行い、選ばれる施設づくりに努めて参ります。

3. 短期入所生活介護

2019年度実績（2020年1月末現在）は次の通りです。

月平均稼働率は84.4%、最高は2019年9月の92%でした。平均稼働率は昨年度比13%向上しております。今年度は感染症による一部フロア閉鎖をすることなく通常通りにサービス提供を行えていること、特養の空床利用することでスムーズな利用調整が図れたこと、またケアマネジャーとの調整で定期利用者の利用日数増加を働きかけたことが要因と考えます。

大阪市からの委託事業である認知症高齢者緊急ショートステイ事業居室確保業務については、2020年1月末現在で8件の緊急受け入れを行っております。

2020年度は増加傾向にある緊急かつ長期利用のニーズにより柔軟に対応し、稼働率の向上に努めて参ります。また新規ケースの定期利用に繋げていく支援とスムーズな特養入所に向け、特養入所申込者のショートステイ利用を進めて参ります。

4. ケアハウス白寿苑

2020年2月1日現在、入居者数29名です。平均年齢は86.9歳、要介護認定を受けている入居者は29名です（その内、要支援…11名、要介護1…5名、要介護2…9名、要介護3…1名、要介護4…1名です）。

① 行事は、職員の人員不足により、中止もしくは、開催時間・回数を減らすなど、内容を検討します。

サークル活動については、外部ボランティアによるものについてのみ、継続予定です。

② 個別の援助計画として、これまで通り、個人面談の機会を作ります。

5. 白寿会診療所

(1) 多職種協同

介護度が重度になっている現状では、健康面での課題は蓄積しています。特に「栄養状態」「感染予防」「褥瘡予防」の3点にフォーカスして多職種協同し積極的に情報を共有しながら、今後もより良い支援に結び付けていきたいと考えております。

また、ストーマや胃ろう、排せつ、スキンケアについては南大阪病院の認定看護師と相談しながらケアを進めており今後も継続していきます。

(2) 褥瘡予防

皮膚症状の悪化予防のために効果的な軟膏等を検討し、使用してきました。特に風呂上りの乾燥しやすい時に軟膏塗布を継続することで、冬季の症状悪化予防につながっています。今後も継続させます。また、OH スケールを取り入れた褥瘡予防についても継続していきます。

【在宅部】

●介護サービス事業課

6. デイサービスセンター白寿苑

◆一般デイサービス

2019年度は利用者延べ人数（総合事業含む）550人、1日利用者平均は21.2人です。2020年2月の登録者数は88人となっております。

2020年2月から体験利用サービスを開始しました。現在、体験利用後に2名の利用者を本利用に繋げることができています。事故等のトラブルが起こらないように、申込用紙に転倒やアレルギー等のリスクを明記し、同意を得た後、利用して頂くようにしております。

また、稼働率を上げるために空き情報用紙の配布と各事業所に出向き営業活動を行っております。

「利用者1人1人に寄り添う」という目標を実現していけるように取り組んでいきます。

◆デイサービスぽかぽか

2019年度は利用者延べ人数233人で1日の平均は9人となっております。2020年2月の登録者数は24人となっております。2019年6月から定員を12名に変更した結果、申込者もあり増収となる見込みです。

2020年度もデイサービスセンター白寿苑とデイサービスぽかぽかの利用移

行を継続していきます。

個別対応の充実の為、毎日午前中に「寺子屋活動」を実施し、ほとんど全員にA4用紙（計算、字の練習、塗り絵、ことわざクイズ等）5枚程度取り組んで頂き、予防を行っています。

昼食では、これからも毎月3回程度「イベント食」を開催致します。引き続き認知症であっても「手続き記憶」を活用し、食事を作る楽しさと食べる喜びを感じて頂けるように企画開発をしていきます。

また、地域運営推進会議を通し、関係各所と調整を行い利用者に充実した時間を過ごして頂きます。

7. ヘルパーステーション白寿苑

現在、登録ヘルパーの利用も定着し、安定したサービスの提供をおこなえています。

日常生活や社会生活における暮らしにくさを軽減するため、介護サービス、障がいサービス共に本人の身体の状態、生活の中でのSOSをとらえる「気づき」を大切に、職員がその人を知ろうとするモチベーションを保てる環境作りをし、真のニーズを見極め、本人や家族の意思を尊重し、地域社会との接点が途切れないよう職員間の情報交換、地域や各専門職との連携を大切にヘルパー一人ひとりが多様なニーズに対応でき一日でも長く在宅生活が送れるように、活動支援を継続していきます。

8. 有料老人ホームつむぎ苑

つむぎ苑も開設から10年が経過し、オープン初期のご入居者様も高齢となり、平均年齢は85歳から90歳、施設全体の平均要介護度も1.5から2.0と上昇しております。この現状に伴い、ご入居者、ご家族のケアに対するニーズが生活援助から身体介護のニーズへと徐々にシフトしております。

また、同時に介護スタッフにかかる身体的、精神的負担も増加しており、離職、休職につながらないよう対策を考えていく必要があります。スタッフの増員を考える前に非効率な業務の改善はいうまでもありませんが、将来的にも、まったく楽観視できない雇用情勢の中、ドラスティックな設備の導入、システムの構築が必要ではないかと感じております。

2019年度は人材定着、組織防衛のための職員教育やマネジメント、人間性、感性を高め合える職場環境作りに力を入れ、ある程度の強化を実感しているところですか、2020年度は加えて、研修会、勉強会などに積極的に参加することのできる職場環境を整え、より専門性の高い技術、知識を習得し現場にフィードバックすることで、施設全体として、多様なニーズに応えることのできる施設作

りにも一層努めてまいりたいと考えております。

●相談支援課

9. ライフサポートセンター白寿苑

ライフサポート業務として管理者要件における主任介護支援専門員を二人配置しています。事業所加算としても特定事業所加算Ⅱを継続しています。日々のケアマネジメントを疎かにせず、運営基準違反や減算にならないようにしていきます。また、特定事業所の特性を生かし地域の居宅介護支援事業所との勉強会等を開催しスキルアップを図ります。

ケアマネ資質向上については、個人が目標設定を行いケアマネジャーとして資質向上するため外部及び法定外研修参加を継続できるような体制を継続していきます。

事業所運営について、新規利用者は2019年度37件、予防10件でした。引き続き利用者獲得を目指し収益につなげていきます。

今後、看取り事例も増えてくることが予想されます。2019年度は看取り事例において医師、訪問看護等とライフサポートセンター白寿苑との独自の連携を構築できたことで、看取り事例をスムーズに受け入れることができるようになりました。今後もこの連携を保ちながら相互の関係作りを強化していくようにします。

2021年の介護保険改正に向けて動向などを確認しながら準備及び周知をしていきます。

10. 玉出地域包括支援センター

2019年度は認知症強化型地域包括支援センターとして認知症施策充実を意識した研修会や周知イベントを開催し、関係機関、地域とのネットワーク構築を進めることができました。

2020年度はまた、地域ケア推進担当、認知症施策の地域支援推進に係る人員への運営費の増額がなされることから、区内の地域包括ケア推進の深化、認知症施策向上に向けて体制強化を図ります。

① 総合相談の充実・複合課題への対応

高齢者・認知症に特化した知識や技術のみならず、前年度より本格始動している区の「総合的な相談支援体制の充実事業(つながる場)」も活用しながら、制度や枠組みに捉われないソーシャルワークを実践できるよう職員の資質と援助技術の向上を目指します。

(地域ケア会議：個別 年間 30回(つながる場を含む) 予定)

② 介護予防の推進・・・総合事業、地域活動、地域包括支援センター独自事業(サ

テライト機能 みんなの居場所事業)と住民主体の活動拠点(あゆみ工房)への後方支援を行い、介護予防の啓発、推進と活動の担い手の発掘を進めます(年間回数 60回予定)

- ③介護支援専門員の質の向上・・・自立支援型ケアマネジメント検討会議から見えてきた地域課題に焦点を置き、定例会議も含め、介護予防と重度化防止に向けて、各地域包括や介護支援専門員と協働し研修会の企画運営を行います。(自立支援型ケアマネジメント本会議 4回、小会議 8回開催、ケアマネジャー勉強会 4回)

- ④ 認知症強化型地域包括支援センターとしての充実

区や地域包括支援センターとの連携調整、地域包括支援センターの機能強化として隣接する専門機関との協働(認知症初期集中支援事業関係者会議等の事務局機能の強化)認知症に関する各種事業の充実(啓発事業、研修事業、ネットワーク構築事業)

上記の事業から見えてくる地域課題に対して具体的な解決策の提案と、各地域包括支援センターへの後方支援や情報提供を行います。

1 1. にしなりオレンジチーム(認知症初期集中支援推進事業)

2019年度実績(2020年1月末現在)は次の通りです。

依頼件数61件、うち支援実件数46件です。家族からの依頼は12件(支援対象外含む)あり、依頼件数の20%となっております。これはホームページ開設による効果も出ていると考えます。ご本人からの依頼も1件ありました。

若年性認知症の相談支援実件数は7件あり、広報啓発活動は45回実施しております。

この認知症初期集中支援推進事業を受託後3年が経過し、区内の医療機関との連携、認知症に関する事業の推進、介護支援専門員等の認知症対応力の強化に資するよう活動しております。引き続き個別ケース対応と広報啓発活動、及び認知症強化型地域包括支援センターとの連動した区内の認知症施策の推進を図って参ります。

1 2. 障害者相談支援 はなめ(相談支援事業)

事業開始後5年を経過して、地域関係機関・医療機関等の連携機関は確実に増えてきています。引き続き、地域の関係者のネットワーク形成・障害特性や制度を理解して利用者のニーズに対応できる質の高い支援を行うべく、各種会議の参加、研修会の参加を行います。また、「8050問題」や中高年・独居で高齢サービスとの併用が必要な方が多い地域であることも踏まえて、法人内で障がいサービスについて知っていただく機会を設け共生を目指します。

2019 年度の基本報酬引き下げへの対応として、「精神障がい者支援体制加算」の算定と各種「評価加算」の算定件数の増加を目指します。また、その他の体制加算算定要件の研修の受講を行います。相談支援専門員一人当たりの標準担当件数が設定されましたが、上限である 1 か月平均 35 件を目標に地域関係機関と連携を深め利用者獲得を行います。

【白寿会研修センター】

1 3. 喀痰吸引等研修事業

当事業は 2013 年度より開始し、これまで 11 回開催し、基本研修参加者が計 216 名、そのうち全課程修了者が 185 名、基本研修修了後実地研修受講中が 23 名（2020 年 2 月末現在）となっています。2018 年 3 月に研修登録機関の更新手続きが済み、2022 年度までの 5 年間、事業実施が可能となりました。2020 年度は、2019 年度と同様、年 1 回の研修事業、基本研修受講者の実地研修の修了状況の確認、実地研修実施施設への巡回訪問をすすめてまいります。